

平成29年度 北海道ふるさと・水と土指導員名簿

平成29年4月現在

ブロック	委員（市町村）、◎会長、○副会長、△幹事、アンダーラインは女性			
道央16名	空知5名	△外山 謙一 (雨竜町)	日高4名	坂爪 洋介 (喜茂別町)
		野 道夫 (沼田町)		白川 博順 (喜茂別町)
		高柳 広幹 (岩見沢市)		佐伯 秀範 (真狩村)
		小西 泰子 (岩見沢市)		親谷 隆 (蘭越町)
金丸 大輔 (栗山町)		中村 勇市 (浦河町)		
石狩1名	◎阿岸 哲広 (石狩市)		中川 貢 (浦河町)	
胆振1名	荒城 敏文 (厚真町)		佐藤 剛 (新冠町)	
後志5名	遠城 諭史 (喜茂別町)		△田中 義光 (日高町)	
道南11名	渡島6名	佐藤 暁樹 (知内町)	桧山5名	佐々木俊司 (厚沢部町)
		笠松 悦子 (知内町)		小笠原明彦 (江差町)
		○小林 石男 (八雲町)		△吉見 俊彦 (上ノ国町)
		元山 美芳 (八雲町)		富樫 一仁 (せたな町)
		田中いずみ (七飯町)		鈴木 修二 (乙部町)
		△宮崎 涉 (森町)		
道北15名	上川11名	中村 雅義 (幌加内町)		佐藤 績 (上川町)
		山中富士男 (愛別町)		辰巳 明美 (上川町)
		大居 政則 (南富良野町)		久保 照美 (中富良野町)
		△岩永かすえ (南富良野町)	留萌3名	△白府勝二三 (苫前町)
		鷹嘴 充子 (南富良野町)		長澤 政之 (小平町)
		◎小野寺孝一 (当麻町)		高野 幸子 (小平町)
		田中 弘子 (旭川市)	宗谷1名	尾崎 滋 (豊富町)
		田阪 正実 (鷹栖町)		
道東17名	林-ツ7名	△馬淵 陽子 (北見市)		高橋 貴子 (鹿追町)
		黒須 倫子 (北見市)		高橋 徹 (浦幌町)
		久保美恵子 (湧別町)	釧路2名	○服部 政人 (鶴居村)
		柳谷亜紀子 (清里町)		高橋美佐子 (厚岸町)
		仲元寺恒平 (興部町)	根室4名	水沼 和子 (別海町)
		八木 実央 (興部町)		佐藤 節子 (別海町)
		石井 恭子 (雄武町)		渡邊 広美 (別海町)
	十勝4名	△神 義宏 (豊頃町)		尾形 好枝 (別海町)
		伊藤由紀子 (帯広市)		
	計58名			

平成29年度北海道ふるさと・水と土指導員名簿

平成29年4月 現在

No.	局名	市町村名	氏名	職業等	主な活動	推薦者	任期	備考
1	空知	雨竜町	外山 謙一	無職	農村景観保全・自然再生活動等	土地連	平成31年3月31日	
2	空知	沼田町	野 道夫	無職	自然再生活動等	町長	平成30年3月31日	
3	空知	岩見沢市	高柳 広幹	改良区職員	環境整備活動等	土地連	平成30年3月31日	
4	空知	岩見沢市	小西 泰子	農業	地域活動全般	土地連	平成30年3月31日	
5	空知	栗山町	金丸 大輔	地方公務員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
6	石狩	石狩市	阿岸 哲広	改良区職員	環境整備指導等	土地連	平成30年3月31日	
7	後志	喜茂別町	遠城 諭史	会社員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
8	後志	喜茂別町	坂爪 洋介	農業	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
9	後志	喜茂別町	白川 博順	地方公務員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
10	後志	真狩村	佐伯 秀範	農業	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
11	後志	蘭越町	親谷 隆	農業	自然再生活動等	町長	平成30年3月31日	
12	胆振	厚真町	荒城 敏文	改良区職員	環境整備活動等	土地連	平成30年3月31日	
13	日高	浦河町	中村 勇市	農業	環境整備・農作業体験	土地連	平成30年3月31日	
14	日高	浦河町	中川 貢	団体職員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
15	日高	新冠町	佐藤 剛	酪農業	地域活動全般	町長	平成32年3月31日	
16	日高	日高町	田中 義光	農業	地域活動全般	町長	平成32年3月31日	
17	渡島	知内町	佐藤 暁樹	仕職	自然観察指導	町長	平成30年3月31日	
18	渡島	知内町	笠松 悦子	農業	農産物加工販売等	町長	平成30年3月31日	
19	渡島	八雲町	小林 石男	農業	地場産品加工直売	町長	平成30年3月31日	
20	渡島	八雲町	元山 美乃	農業	農産物加工販売等	町長	平成30年3月31日	
21	渡島	七飯町	田中 いずみ	無職	地域活動全般	町長	平成31年3月31日	
22	渡島	森町	宮崎 渉	地方公務員	地域活動全般	町長	平成31年3月31日	
23	桧山	厚沢部町	佐々木 俊司	会社役員	地域活動全般	土地連	平成30年3月31日	
24	桧山	江差町	小笠原 明彦	団体嘱託員	農村景観・農作業体験指導	土地連	平成31年3月31日	
25	桧山	上ノ国町	吉見 俊彦	無職	農村環境・景観保全活動等	土地連	平成32年3月31日	
26	桧山	せたな町	霧野 一仁	農業	地域活動全般	土地連	平成31年3月31日	
27	桧山	乙部町	鈴木 修二	団体嘱託員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
28	上川	幌加内町	中村 雅義	農業	地域活動全般	土地連	平成30年3月31日	
29	上川	愛別町	山中 富士男	地方公務員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
30	上川	南富良野町	大居 政則	農業	環境整備活動等	町長	平成30年3月31日	
31	上川	南富良野町	岩永 かずえ	農業	農産物地産地消活動等	町長	平成32年3月31日	
32	上川	南富良野町	藤崎 茂子	会社役員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
33	上川	当麻町	小野寺 孝一	無職	地域活動全般	土地連	平成30年3月31日	
34	上川	旭川市	田中 弘子	農業	都市農村交流等	市長	平成30年3月31日	
35	上川	上川町	佐藤 績	農業	地域活動全般	土地連	平成32年3月31日	
36	上川	上川町	辰巳 明美	農業	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
37	上川	鷹栖町	田阪 正実	農業	地域活動全般	土地連	平成32年3月31日	
38	上川	中富良野町	久保 照美	花卉卸し販売	地域活動全般	町長	平成31年3月31日	
39	留萌	苫前町	白府 勝二三	改良区職員	環境整備指導等	土地連	平成30年3月31日	
40	留萌	小平町	長澤 政之	地方公務員	自然体験指導	町長	平成31年3月31日	
41	留萌	小平町	高野 幸子	農業	地域活動全般	町長	平成31年3月31日	
42	宗谷	豊富町	尾崎 滋	団体職員	都市農村交流等	町長	平成32年3月31日	
43	林-㍿	北見市	馬淵 陽子	農業	農産物直売等	市長	平成30年3月31日	
44	林-㍿	北見市	黒須 倫子	農業	地域活動全般	土地連	平成30年3月31日	
45	林-㍿	湧別町	久保 美恵子	酪農業	地域活動全般	町長	平成32年3月31日	
46	林-㍿	清里町	柳谷 亜紀子	農業	地域活動全般	町長	平成31年3月31日	
47	林-㍿	興部町	仲元寺 恒平	団体職員	地域活動全般	町長	平成31年3月31日	
48	林-㍿	興部町	八木 実央	地方公務員	地域活動全般	町長	平成31年3月31日	
49	林-㍿	雄武町	石井 恭子	会社員	地域活動全般	町長	平成31年3月31日	
50	十勝	豊頃町	神 義宏	地方公務員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
51	十勝	帯広市	伊藤 由紀子	酪農業	地域活動全般	市長	平成31年3月31日	
52	十勝	鹿追町	高橋 貴子	会社員	地域活動全般	町長	平成32年3月31日	
53	十勝	浦幌町	高橋 徹	会社役員	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
54	釧路	鶴居村	服部 政人	団体職員	都市農村交流等	村長	平成31年3月31日	
55	釧路	厚岸町	高橋 美佐子	無職	地域活動全般	町長	平成32年3月31日	
56	根室	別海町	水沼 和子	無職	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
57	根室	別海町	佐藤 節子	酪農業	地域活動全般	町長	平成32年3月31日	
58	根室	別海町	渡邊 広美	酪農業	地域活動全般	町長	平成30年3月31日	
59	根室	別海町	尾形 好枝	酪農業	地域活動全般	町長	平成32年3月31日	新規

平成29年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画(案)

1 地域活動支援事業

- (1) 実践活動地区 (4地区、括弧は年次)
湧別町湧別地区 (3)、別海町別海地区 (2)、七飯町七飯地区 (2)、
岩見沢市北村豊正地区 (2)
- (2) 住民意識醸成地区 (1地区)
根室市厚床地区 (仮称)

2 研修事業

- (1) 指導員の委嘱
- (2) 全国研修へ指導員を派遣
- (3) 地域づくり研修会 (9月4～9日のうち10日間 札幌市 テーマ「農村と観光」)
- (4) 現地研修 (10月18～19日 江差町・乙部町)
- (5) 北海道ふるさと・水と土指導員会 (1月)
- (6) 北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会 (5月24日、1月)
- (7) 指導員ブロック別ミーティング (4ブロック)
 - ① 道東ブロック 7月下旬 根室管内
 - ② 道北ブロック 8月1～2日 (小平町)
 - ③ 道央ブロック 11月7～8日 日高管内
 - ④ 道南ブロック 11月 渡島管内
- (8) 情報誌「里づくり」の発行 2回 (7月、2月)
- (9) web版「里づくり」の配信 毎月

3 推進事業

- (1) 委員会の開催 3回 (5月、12月、3月)
- (2) 活動地区との意見交換、事業採択前の地区への支援
- (3) ホームページの更新
 - ① 指導員プロフィール
 - ② 事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報
- (4) 啓発普及
「新・田舎人」(92～95号)の配布

平成29年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会の開催		第1回 5/11							第2回			第3回
委員による意見交換会	別海地区 4/19		湧別地区	別海地区 (厚床地区)				七飯地区			岩見沢市 北村豊正地区	
指導員 関連事業	Web版 里づくり (毎月)	第11回 幹事会 (札幌) 5/24	道東アソック (根室)	情報誌 里づくり 15号	道北アソック (留萌) 8/1~2	地域づくり の研修会 (札幌)	現地研修 (檜山) 10/18 ~19	道央アソック (日高) 11/7~8 道南アソック (渡島)		第2回 幹事会 (札幌)	全国研修 (東京) 情報誌 里づくり 16号	
その他			農水省 全国担当 者会議?									

平成29年度北海道ふるさと・水と土指導員道央ブロックミーティング開催要領
(案)

1 開催目的

人口減少社会の到来により、農村集落の維持・活性化が大きな課題になる中、道央ブロック（空知総合振興局、石狩振興局、後志総合振興局、胆振総合振興局及び日高振興局）の北海道ふるさと・水と土指導員及び振興局職員が集落づくりを効果的に支援できるよう、集落づくりのノウハウを入手するとともに、各指導員間等の情報交換等を通じて集落づくりの支援に向けた意欲の醸成と実際の活動促進を図ることを目的とする。

2 研修テーマ

- ・農村集落のコミュニティ強化に向けたノウハウ
- ・農村集落の活性化に向けた取組方法
- ・移住者（地域おこし協力隊等）の活動による集落活性化への効果
- ・地域資源を活かした交流促進の手法

3 開催日

平成29年11月6日（月）～8日（水）
(※第1候補：7（火）～8日（水）)

4 研修場所

日高町、平取町、新冠町、浦河町

5 参加予定者

- ・ふる水委員会委員
- ・指導員会会長
- ・指導員（空知5名、石狩1名、後志数名、胆振1名、日高4名）
- ・振興局5名
- ・農政部農村設計課3名

合 計：約25名

6 日 程

<1日目> (※宿泊場所は、静内町も候補)

場 所	時 間	項 目 (対応者)	内 容
道庁本庁舎北門	9:30 (出発)	参加者集合	・バス乗車 (高速占冠からのルート)
仁世宇園 (平取町)	12:05 ~13:25 (80分)	釣り堀仁世宇園店主 ・やったるう会 会長 佐々憲一氏	・昼食 (ヤマメ料理) ・地域おこしグループやったるう 会の活動聴き取りと意見交換
岩知志地区 (平取町)	13:35 ~15:20 (105分)	集落づくり リーダー いとや氏	・集落づくりの現状認識や集落内 経済循環的な豆腐・ジャムづく り及び苦小牧等との交流などの 活動の聴き取りと意見交換
日高町里平 (日高町・新冠町)	16:10 ~16:50 (40分)	ふる水指導員 田中義光氏 佐藤 剛氏	・米麴づくりの活動見学
新冠レコードの湯 (新冠町)	17:40 (到着)		・宿泊

<2日目>

場 所	時 間	項 目 (対応者)	内 容
新冠レコードの湯 (新冠町)	8:20 (出発)		
浦河観光協会 (浦河町)	9:20 ~10:10 (50分)	ふる水指導員 中川 貢氏	・地域の特色ある資源を活かした 都市と農村との交流メニュー等 の聴き取りと意見交換
町民出資型書店六 畳書房 (浦河町)	10:20 ~11:00 (40分)	地域おこし協力隊	・町民出資型の書店の見学 (新刊本 の購入機会などの創出)
ばふんぱーかーぷろじ ェクト (浦河町)	11:10~11:50 (40分)	地域おこし協力隊	・馬糞を活用した紙づくりの状況見 学 (地域資源の有効活用)
かど天 (浦河町)	12:00~13:20 (80分)	店主 梶田晴之氏	・昼食 (かつめし) ・ソウルフードかつめしの開発物語 の聴き取り
道庁本庁舎北門	16:30 (到着)	参加者解散	(海岸線から千歳を通るルート)

H29 ふる水現地研修会(案)

月日	出		移動手段		到着		行				備考	
	場所	時刻	時刻	時刻	時刻	時刻	移動距離	移動時間	研修時間	内容		
10月19日 水	JR八雲駅集合	8:15	バス	八雲現地研修①	8:35	0:20	12.3	0:35	9:10	0:35	小林哲博氏(林道園・八雲町東野417)	県会場所(JR八雲駅前 8:00) 簡易対比
	八雲現地研修②	9:10	バス	江差町	10:40	1:30	60.6	1:30	12:00	いにしえ街道「れきま」から「散策」その① ぶらっと江差・海の駅(アンテナショップ)		
	江差町	12:00	徒歩	昼食場所(江差町内)	12:05	0:05		0:55	13:00	昼食		
	昼食場所(江差町内)	13:00	徒歩	江差町	13:05	0:05		4:25	17:30	いにしえ街道「れきま」から「散策」その② いにしえ資源研究会、並分金庫、大土庫の夜		
	江差町	17:30	バス	江差町(宿泊施設)	17:40	0:10		0:10	17:50	寺子屋「ニュー」えまじで閉会予定		
	江差町(宿泊施設)	17:50	徒歩	意見交換会会場	18:00	0:10		2:00	20:00	交流意見交換会		
	10月20日 水	江差町(宿泊施設)	8:30	バス	厚沢部町道の駅	9:00	0:30	13.4	0:40	9:40	0:40	
厚沢部町道の駅	9:40	バス	八雲町の駅	10:50	1:10	54.3	10:50	11:40	0:50	ハーバスター八雲を追加?		
八雲町の駅	11:40	バス	JR八雲駅	11:50	0:10	5.0				解散		
JR八雲駅												
JR八雲駅												
S北斗7号	11:14	JR	JR札幌駅	13:40	2:32					南千歳 13:15		
S北斗9号	11:59	JR	JR札幌駅	14:41	2:42					南千歳 14:09		
S北斗11号	13:23	JR	JR札幌駅	16:04	2:41					南千歳 15:30		
北斗13号	15:01	JR	JR札幌駅	17:41	2:40					南千歳 17:07		

平成29年度 中山間ふるさと・水と土保全対策事業予算

(単位:千円)

区分	H29予算額	H29執行予定額		H28当初	H28実績
1 地域支援活動 事業費	4,936	鶴居地区	—	1,585	1,413
		里平地区	—	340	301
		湧別地区	616	509	433
		別海地区	633	840	158
		七飯地区	1,786	1,300	542
		北村地区	596	800	703
		厚床地区	1,306	—	—
小計			4,936	5,374	3,550
2 研修事業費	6,593	地域づくり研修会	1,674	1,425	1,019
		現地研修	1,085	1,347	949
		指導員会	1,195	1,283	1,151
		情報誌等	229	202	212
		全国研修会	562	478	623
		ブロック別ミーティング	1,848	1,012	1,219
小計			6,593	5,747	5,174
3 推進事業費	2,274	委員会	491	173	271
		現地調査等	900	782	811
		啓発活動等	883	1,924	991
小計			2,274	2,879	2,073
合計	13,803		13,803	14,000	10,797

別記様式第4号
活動計画

団体名		JA湧別町女性部マルシェ部会		市町村名		湧別町		地区名		湧別地区	
めざす姿		活動を通じて開発した商品が、長く愛される「地域ブランド」となるよう、食を通じ地域の活性化を図る									
活動の方向		活動の内容		目標(数値・定性)		解決すべき課題					
1	PR事業	地域住民		地域(湧別町)内で、「食」に対する部会の姿勢が認識されていない加工品の開発に対するマルシェ部会の取組が周知されていない。そこで、パンフ等を作成し、部会の取組の周知を図る。							
2	研修事業	部会員等		構成員は全員農業者であり、地域活動の展開についてノウハウがない。そのため今後の地域活動に活かせるよう、先進地事例を知る。							
3	食育事業	小中学校、老人ホーム等		湧別町では牛乳をはじめとする農産物や水産物が産出されるが、その「加工」への取組はなされていなかった。そこで、地場産農産物の加工品を「食す」ことを通じ、部会が商品開発を進めたきっかけとなった「食の大切さへの認識」を伝える。							
4	商品開発	部会員等		部会の活動を通じて開発された商品が「安全」で「機能的」かどうかの数値的根拠がないため、これらを分析に、適切な表示を行い消費者への情報提供を行う。また「流水とうもろこし」のはね品が多いという課題があり、これを活用した新たな商品を開発する							
※予算額単位は「千円」											
活動事項	関連NO	平成27年度		平成28年度		平成29年度		最終目標		適用事業	
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額	内容	年度目標		
PR事業	1	パンフ作成		のぼり等作成	160	20枚	90	1回	1回	地場産農産物や開発した商品をPRにより、地域ブランドとしての地位を築く	
研修事業	2	先進地視察	52	先進地視察	160	1回(中札内村)				今後の方策を検討する	
食育事業	3	食料提供及び食育事業等	45	食料提供及び食育事業等	18	3回(小学校1、2人ホ-ム)				取組の内容を理解することで、地場産商品に対する地域住民の意識を醸成する	
商品開発	4	食品成分検査	162	食品成分検査	55	1回	100	1回	1回	はね品を用いた新たな商品を開発する。また取組により誕生した商品の品質情報を把握し、安全で安心な地域ブランドとなるよう商品を開発する。	
マルシェ部会		代表		久保 美恵子 (01586-6-2214)							
JA湧別町女性部		代表		越智 祥子							
湧別町農業協同組合		営農相談課長		小幡 敏 (01586-5-2121)							
湧別町		農政課耕地係長		池田 孔紀 (01586-2-5861)							
湧別町教育委員会		課長		佐藤 敏正 (01586-5-3143)							
関係者等											
3年間の活動プロセス											

活動計画

団体名		チームNKB		市町村名		別海町		地区名		別海地区	
めざす姿		～花とハーブのネットワークづくり～ 町内の酪農女性、特に道外出身の方には酪農業や家事に追われ、積極的な仲間づくりが進んでいない。また、町内の地域資源は乳製品に偏っており、農家個々が高付加価値商品を開発するには至っていない。このことから、新たな地域資源として、まずはハーブをテーマとした取り組みをすすめ、オール別海の女性の輪づくりを並行させながら、地域の活性化の糸口とする。									
活動の内容		<p>目標(数値・定性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な交流会の開催(年2回) 定期的な交流会の開催(年2回) 3年目には他団体との連携 各農家でハーブ栽培の普及 ハーブを使った商品の開発 機関紙の発行 									
活動の方向		<ul style="list-style-type: none"> 酪農女性の仲間づくり 道外出身者の活動の場とすることを視野に入れながら、酪農業を営む女性の活動母体(ネットワーク)づくりを進める ネットワークの拡大 酪農女性を中心とした活動母体に、町内外の他団体(女性中心の団体を想定)を巻き込んでいく ハーブなど新たな地域資源の発掘 寒冷地であり限られた地域資源に、新たな必要を生み出すよう、まずは冷涼地帯に適しているハーブを中心に、新たな地域資源を発掘していく 別海の魅力発信 上記①～③の活動について、町内外を問わず広く発信していく 									
活動事項	関連NO	平成28年度		平成29年度		平成30年度		年度目標	最終目標	適用事業	
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額				
仲間づくり	①	先進地視察	100,560千円	先進地視察	295,300千円	1回(道内)	1回(道内)				
	①②			見学館(又は加工センター)での親身イベント	51,100千円	1回/年	1回/年	見学館(又は加工センター)での親身イベント	200千円	2回/年	
ハーブ栽培の取組み	③	栽培技術講習会	64千円	栽培技術及び利用講習会	120,400千円	1回/年	1回/年				
	③	ハーブ・ガーデン(苗・肥料・ネット)	34,490千円	ハーブ・ガーデン(苗・肥料)	72,150千円	メイン1ヶ所、サブ5ヶ所	メイン1ヶ所、サブ5ヶ所	ハーブ・ガーデン(苗・肥料)	150千円	1回/年	
商品開発	②③	ハーブ・キッチン(加工技術研修)	24,300千円	ハーブ・キッチン(調理加工体験 商品開発)	61,300千円	2回/年	2回/年	ハーブ・キッチン(調理加工体験 商品開発)	300千円	2回/年	
	②③	ハーブ・キッチン(商品の試作)	140千円	ハーブ・キッチンによる講習会	100千円	1回/年	1回/年	ハーブ・キッチンによる講習会	100千円	1回/年	
情報発信	①④	産業者への試供品配布	100千円	産業者への試供品配布	100千円	1回/年	1回/年	産業者への試供品配布	100千円	1回/年	
	①④	農業者への試供品配布	1回/年	農業者への試供品配布	60千円	2回/年	2回/年	産業者への試供品配布	60千円	1回/年	
	②③							品評会(JA、JF、商工)の開催	50千円	1回/年	
	②④							機関紙の発行(各イベント等)	150千円	1回/年	
	②④							就農イベント・祭と絡への参加	300千円	1回/年	
関係者等		別海町女性農業者会 別海酪農女性のつどい 根室農業改良普及センター 事務局長・別海町産業振興部農政課 事務局長・別海町産業振興部農政課 専門普及指導員 大畑 和子									

活動計画

団体名	七飯の食を考える会		市町村名	七飯町		地区名	七飯																																																																									
目的	<p>七飯町は西津農業産物の産地であり農産物(大根、人参等)栽培及び見学の取組も道内では上位を占め、又経典がな森と湖の大沼地域は酪農(肉牛)や水産、まさしく食の宝庫である。)</p> <p>・未来を担う子ども達及び地域住民に、「ななえ食」を再認識してもらい、産地見学・学習体験等を通して、ふるさとである七飯町に愛着を持つ環境を整える。</p> <p>・「ななえ食」を活用した産地見学会(収穫体験)や料理の開発、加工品等により七飯町の魅力を町内外に発信する。</p>																																																																															
活動の内容	<p>① 「ななえ食」の地域資源に関する取組 ・食材(農林水産物)の取組 ・地域住民と生産者(地域講師)の交流・勉強会</p> <p>② 「ななえ食」の体験型(仮称)「食育・調理加工・木育等」に関する取組 ・子どもも参加型(地域モデル校:軍川小学校) ・地域住民参加型</p> <p>③ 活動内容の地域への周知及び理解の促進</p>																																																																															
解決すべき課題	<p>・子どもから大人まで「ななえ食」の歴史を知る企画促進。 ・地域内全体での地域講師の発掘 ・異世代交流方法(地域講師と子ども達) ・提供者、ボランティアなど運営問題、指導係確保が必要。 ・他校での取組みをする学校等の増加 ・地域内での産地見学場所の選定</p>																																																																															
目標(数値・定性)	<p>・地域活動勉強会の開催 ・生産者(地元講師)の学習会の開催 ・産地見学会・体験学習会及び加工工見学会の開催 ・会のメンバー増員 ・ボランティアスタッフ増加</p>																																																																															
関連事項	<p>平成28年度 平成29年度 平成30年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>内容</th> <th>予算額</th> <th>年度目標</th> <th>内容</th> <th>予算額</th> <th>年度目標</th> <th>最終目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28</td> <td>地域活動勉強会</td> <td>8.6万円</td> <td>1回/年(11月)~(3月)</td> <td>地域活動勉強会</td> <td>9.6万円</td> <td>1回/年(11月)</td> <td>「ななえ食」の再認識及び地域講師の発掘・登録する。</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>「ななえ食」子ども産地見学(2回/1ヶ所)(3回/2ヶ所)</td> <td>3.3万円</td> <td>2回/年(6月、9月)</td> <td>「ななえ食」子ども一社三菜(ご飯、汁物)調理体験(和食)</td> <td>16.6万円</td> <td>1回/年(10月)</td> <td>産地見学・学習体験を実施することにより、地域の生産者と元講師の親れ合いを通して地元の良いさを再認識する。</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>「ななえ食」子どもフルコース調理体験(洋食)</td> <td>28.25万円</td> <td>1回/年(10月)</td> <td>「ななえ食」子ども工場見学(1回/3ヶ所)</td> <td>5万円</td> <td>1回/年(9月)</td> <td>産地見学・学習体験を実施することにより、地域の生産者と元講師の親れ合いを通して地元の良いさを再認識する。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>「ななえ食」のテレビ作成</td> <td>35万円</td> <td>3,000部カラー</td> <td>「ななえ食」のテレビ及び会の活動紹介パンフレット作成</td> <td>35万円</td> <td>3,000部カラー</td> <td>中山間ふるさと・水と土保全対策事業(地域活動支援事業)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>「ななえ食」のパネル作成</td> <td>45万円</td> <td>15部(A1)</td> <td>「ななえ食」のパネル作成</td> <td>45万円</td> <td>15部(A1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>「七飯の食を考える会」エピソード作成</td> <td>13.1万円</td> <td></td> <td>「ななえ食」の体験地図産地パンフレット作成</td> <td>30万円</td> <td>3,000部カラー</td> <td>会の活動内容を地域住民に理解してもらい「ななえ食」の魅力を生かすこと。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>「ななえ食」の地元講師とりまどめパンフレット作成</td> <td>25万円</td> <td>3,000部カラー</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>「ななえ食」食育活動とりまどめ(冊子)作成</td> <td>120万円</td> <td>1,000部2Pカラー</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								年度	内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標	最終目標	28	地域活動勉強会	8.6万円	1回/年(11月)~(3月)	地域活動勉強会	9.6万円	1回/年(11月)	「ななえ食」の再認識及び地域講師の発掘・登録する。	29	「ななえ食」子ども産地見学(2回/1ヶ所)(3回/2ヶ所)	3.3万円	2回/年(6月、9月)	「ななえ食」子ども一社三菜(ご飯、汁物)調理体験(和食)	16.6万円	1回/年(10月)	産地見学・学習体験を実施することにより、地域の生産者と元講師の親れ合いを通して地元の良いさを再認識する。	30	「ななえ食」子どもフルコース調理体験(洋食)	28.25万円	1回/年(10月)	「ななえ食」子ども工場見学(1回/3ヶ所)	5万円	1回/年(9月)	産地見学・学習体験を実施することにより、地域の生産者と元講師の親れ合いを通して地元の良いさを再認識する。		「ななえ食」のテレビ作成	35万円	3,000部カラー	「ななえ食」のテレビ及び会の活動紹介パンフレット作成	35万円	3,000部カラー	中山間ふるさと・水と土保全対策事業(地域活動支援事業)		「ななえ食」のパネル作成	45万円	15部(A1)	「ななえ食」のパネル作成	45万円	15部(A1)			「七飯の食を考える会」エピソード作成	13.1万円		「ななえ食」の体験地図産地パンフレット作成	30万円	3,000部カラー	会の活動内容を地域住民に理解してもらい「ななえ食」の魅力を生かすこと。					「ななえ食」の地元講師とりまどめパンフレット作成	25万円	3,000部カラー						「ななえ食」食育活動とりまどめ(冊子)作成	120万円	1,000部2Pカラー	
年度	内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標	最終目標																																																																									
28	地域活動勉強会	8.6万円	1回/年(11月)~(3月)	地域活動勉強会	9.6万円	1回/年(11月)	「ななえ食」の再認識及び地域講師の発掘・登録する。																																																																									
29	「ななえ食」子ども産地見学(2回/1ヶ所)(3回/2ヶ所)	3.3万円	2回/年(6月、9月)	「ななえ食」子ども一社三菜(ご飯、汁物)調理体験(和食)	16.6万円	1回/年(10月)	産地見学・学習体験を実施することにより、地域の生産者と元講師の親れ合いを通して地元の良いさを再認識する。																																																																									
30	「ななえ食」子どもフルコース調理体験(洋食)	28.25万円	1回/年(10月)	「ななえ食」子ども工場見学(1回/3ヶ所)	5万円	1回/年(9月)	産地見学・学習体験を実施することにより、地域の生産者と元講師の親れ合いを通して地元の良いさを再認識する。																																																																									
	「ななえ食」のテレビ作成	35万円	3,000部カラー	「ななえ食」のテレビ及び会の活動紹介パンフレット作成	35万円	3,000部カラー	中山間ふるさと・水と土保全対策事業(地域活動支援事業)																																																																									
	「ななえ食」のパネル作成	45万円	15部(A1)	「ななえ食」のパネル作成	45万円	15部(A1)																																																																										
	「七飯の食を考える会」エピソード作成	13.1万円		「ななえ食」の体験地図産地パンフレット作成	30万円	3,000部カラー	会の活動内容を地域住民に理解してもらい「ななえ食」の魅力を生かすこと。																																																																									
				「ななえ食」の地元講師とりまどめパンフレット作成	25万円	3,000部カラー																																																																										
				「ななえ食」食育活動とりまどめ(冊子)作成	120万円	1,000部2Pカラー																																																																										
関係者	<p>七飯の食を考える会 七飯町 七飯町立軍川小学校</p> <p>代表 田中 いずみ、対馬 明子、種畑 智生子、山田 あゆみ、吉田 静子、宮後 英子、藤吉 愛、和泉 詩穂、牧野 成美 農林水産課 TEL 0138-65-2511 FAX 0138-66-2054 TEL 0138-67-2333 FAX 0138-67-3591</p>																																																																															
3年間の活動プロセス	<p>※「ななえ食」とは、七飯町で生産・加工されたすべての食料(農林水産物)</p>																																																																															

活動計画

団体名	豊正FAM協議会		市町村名	岩見沢市		地区名	岩見沢市北村豊正	
めざす姿	<p>～人が訪れる地域づくりを通して、老後も元気に暮らす～ 近年、高齢化に伴う離農や店舗の撤退などで過疎化が進行しつつある中、生産者組織「北の大地マルシェ」(空き店舗を活用した直売事業と落花生の加工事業を推進)を設立し、他地域から多くの人が訪れ、地域の活性化を図る。 また、「北の大地マルシェ」事業と並行し、従前から実施している交流事業(フットパスイベントや落花生まつり)の一層の充実を図り、更なる北村豊正ファーンを獲得し、他地域や都市との交流、異業種交流、福祉団体との連携など複合的な活動を進めていく。</p>							
NO	活動の内容		目標(数値・定性)		解決すべき課題			
①	北の大地マルシェ直売事業 ・6月上旬から11月上旬まで、JA空き店舗を借用した直売所運営 ・地域住民が集う場所としてのカフェの開業	<p><初年度> 来場者 期間中900人(予定) 売上 年間750千円(予定) <29以降> 前年度比10%増</p>	<p>・効率的な直売所運営が図れるよう経営ノウハウの習得 ・都市部に対するPRの実施等、効果的な販促活動 ・構成員の積極的な参加と出荷者の増加による品揃えの確保 ・カフェメニューの開発</p>					
②	北の大地マルシェ加工事業 ・「塩ゆで落花生」加工販売 ・地場農産物を活かした加工品の研究	<p><塩ゆで落花生加工販売> 加工品の品質の均一化 <加工品の研究> 加工品の開発 1品</p>	<p><塩ゆで落花生加工販売> 加工技術の習得、向上と委託加工受入体制の確立 <加工品の研究> 加工技術の習得、向上 加工品開発に係るパッケージデザイン等の情報収集</p>					
③	交流事業 ～フットパス交流会・落花生まつり ・7月上旬にフットパス交流会、10月上旬に落花生まつりのイベントを開催し、地場農産物の料理を楽しむながら生産者と消費者や異業種と交流や福祉団体との連携を図る。 ・活動を集落全体に波及させ、多くの住民参加を促す。	<p>運営方法等の具体的な取組手法の定着及び集落の様々な住民の参加</p>	<p>・参加対象を広げたいが参加者の参加しやすい体制が整備されていない。(バス の確保等) ・継続した活動につなげたい。 ・集落の維持・活性化に向けた効果を発揮させたい。</p>					

活動事項	関連NO	平成28年度		平成29年度		平成30年度		最終目標	適用事業
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額		
北の大地マルシェ直売事業	①	先進地へのバス視察研修	120	1回/年開催	100	1回/年開催	120	1回/年開催	地域の直売所として活動の安定を図る
	②	販売促進に係る資材(エプロン・のぼり等)費	160	10本・横幕1枚	508	のぼり10本・横幕2枚等	120	のぼり10本・横幕2枚等	
	③	マルシェPRポスター・チラシ作成	120	100部作成	260	130部作成	120	100部作成	
北の大地マルシェ加工事業	①	加工販売に係るマーケティング研修	20	1回/年開催	205	2回/年開催	50	1回/年開催	地場農産物のPRにつなげる
	②	加工技術向上に係る研修	70	1回/年開催	171	2回/年開催	93	1回/年開催	
	③	コースの整備	110	案内看板の設置			140	500部作成	地域のイベントとして定着させる
交流事業	①	フットパス交流推進に係る研修	40	1回/年開催	54	1回/年開催	40	1回/年開催	
	②	フットパス・落花生まつりPRポスター・チラシ作成	160	100部作成	100	各500部作成	160	100部作成	
	③	岩見沢市農政部農業基盤整備課		山崎 拓也		(連絡先 0126-23-4111)			
関係者等		IAいわみざわ農業振興部門		児玉 卓也		(連絡先 0126-22-6924)			
		宮島沼水島・温地センター		牛山 克己		(連絡先 0126-66-5066)			
		北海道改良区水田ネット推進室		高柳 広幹		(連絡先 0126-22-2400)			
		空知農業改良普及センター		佐久間 裕美子		(連絡先 0126-23-2900)			



北海道

サイト内検索: カスタム検索

[ホーム](#) > [総務部](#) > [行政改革課](#) > 平成28年度政策評価の実施状況について

音声で読み上げる

ツイート

最終更新日: 2016年11月28日(月)

平成28年度政策評価の実施状況について

道が実施した政策評価(基本評価(施策評価及び事務事業評価)、特定課題評価、公共事業評価)の結果をとりまとめました。

政策評価は、知事が定めた基本方針に基づき各実施機関が実施方針を策定し、一次政策評価を実施するとともに、道政の統一性の確保や総合的な推進を図る観点から知事による二次政策評価を実施しています。

- ※基本方針: 政策評価の実施に当たって指針となるべき事項(知事が策定)
 - ※実施方針: 基本評価、公共事業評価、特定課題評価の実施に係る方針(実施機関が策定)
- (平成28年度政策評価基本方針・実施方針)

1 基本評価の結果(評価調査)

【概要】

北海道総合計画の政策体系に沿って、重点戦略計画などに関連する施策と一体的に推進を図るとともに、限られた行財政資源を最大限に活用し施策目標を実現するため、目標・指標などの具体の根拠に基づき、106の施策(2,685事務事業)について点検・検証し、今後の施策展開の方向性などを整理しました。

1 施策評価

(1) 一次評価の結果

施策に設定した成果指標の達成状況を把握した上で、施策の全体分析により目標の達成に向けた今年度の進捗状況について点検・検証し、評価しました。

・評価結果

総合計画の政策目的の実現に向けて推進する106施策(重複分を含めた156施策)

施策数	目標の達成に向けた今年度の進捗状況		
	概ね順調に展開	課題等はあるが引き続き推進	遅れなどがあり改善が必要
106	67	39	0

・施策に設定した成果指標の直近の実績値に基づく達成状況（上段：構成比／下段：指標数）

A (100%以上)	B (90%以上 100%未満)	C (80%以上 90%未満)	D (80%未満)	判定不可 (実績未確定)	計
52.2% (140)	15.7% (42)	3.4% (9)	16.0% (43)	12.7% (34)	100% (268)

(2) 二次評価の結果（今後の取組の方向性など）

一次評価の結果について、実施方針に示す重点的な視点に基づく徹底した点検・検証を行い、目標の達成に向けて検討が必要な46の施策に意見を付し、今後の取組の方向性などを個別に整理しました。

意見付加 施策数	施策目標の達成状況	施策間の連携状況等	施策の緊急性、優先性	
	目標達成に向けてさらなる取組 が必要な施策	関連する施策間・部局 間で一層の相互連携が 必要な施策	緊急性が高く、優先 的に取り組む必要が ある施策	新たな課題等への対応 が必要な施策
46 (重複除く)	31	13	13	6
一次評価「課題等はあるが引き続き推進」の39施策のうち必要と認められる施策に意見を付加 一次評価を行った106施策のうち必要と認められる施策に意見を付加				

2 事務事業評価

(1) 評価結果（平成29年度に向けた見直しの方向性等）

区分	見直し 検討	継続	現状維持				縮小	統合	廃止等	合計
			現状維持	拡充	縮小	統合				
事務事業数	111	2,487	1,814	127	541	5	87	2,685		
施策を構成する 事務事業数	110	2,024	1,458	117	444	5	78	2,212		

(2) 重点点検事項

成果指標の達成状況や前年度に二次政策評価意見を付した事務事業の検討状況などについて点検・検証を行い、169の事務事業について、必要な見直し等の検討を進めることとしました。

2 特定課題評価の結果（評価調査）

【概要】

「基金のあり方」をテーマとして、基金事業の必要性・有効性や基金方式により実施する必要性などについて点検・検証し、今後の方向性を整理しました。

(1) 評価結果

区分	基金名	方向性	評価
取崩し型基金	循環資源利用促進税基金	基金継続	現状維持
	国民健康保険広域化等支援基金	基金廃止	事業廃止
果実運用型基金	北方領土隣接地域振興等基金	基金継続	現状維持
	環境保全基金、少年スポーツ振興基金、 地域福祉基金、文化基金、 中山間ふるさと・水と土保全対策事業基金、 農業・農村ふれあい基金、 森林整備担い手対策基金	見直し検討	-

定額運用基金	市町村振興基金	基金継続	規模縮小
--------	---------	------	------

(2) 評価意見

基本評価等専門委員会からの意見を踏まえ、8基金について、必要な見直し等の検討を進めることとしました。

3 公共事業評価の結果

(詳細・調書等→H28再評価)

【概要】

道が実施する公共事業（国庫補助事業等）の施行地区のうち、事業採択後、未着工や長期間が経過している地区及び事業費に大幅な変更が生じた地区33地区を点検し、32地区について継続、1地区について中止としました。

評価結果

評価実施地区	評価結果			
	継続	休止	中止	終了
33	32	0	1	0

いいね! 0

ツイート

0

[庁舎のご案内](#) | [サイトの方針](#) | [リンクについて](#) | [個人情報の取扱いについて](#) | [著作権について](#)

北海道 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 電話番号 011-231-4111 (大代表) 法人番号 7000020010006 [\[電話番号一覧\]](#)
 一般的な業務時間 8時45分～17時30分 (土日祝日および12月29日～1月3日はお休み)

(c)2017 HOKKAIDO GOVERNMENT ALL RIGHTS RESERVED.

特定課題評価調書

1 基金の概要

基金の名称	中山間ふるさと・水と土保全対策事業基金		調査作成責任者	農政部長 土屋 俊亮				
			担当課グループ	農村整備課田園企画グループ				
設置目的	中山間地域等における土地改良施設等の多面的機能の良好な発揮と当該施設等の利活用に係る地域住民の共同活動の活発化により中山間地域等の活性化を図るために必要な中山間ふるさと・水と土保全対策事業に要する経費の財源に充てることを目的として設置。			設置年度	平成5年度			
				設置期限	未設定			
関連施策名	農業農村整備の推進			施策コード	06-04			
施策目標及び成果指標	施策目標	成果指標		基準年度(25年度)	現 状(年度)	目標年度(37年度)		
	地域の個性や創造力を活かした農業・農村の持続的発展に向けて「いのちの源「食」の生産をささえる」「多様な担い手と地域をささえる」「豊かな農村環境をささえる」の3つを整備の基本方針とし、地域の実情に即した生産基盤等の計画的な整備を進める。	—	実績	—	—	—		
			目標値	—	—	—		
			達成度	—	—	—		
関連事務事業名	中山間ふるさと・水と土保全対策事業推進費			事務事業コード	06140200			
事業の概要	中山間地域等における土地改良施設等の多面的機能の発揮と当該施設の利活用やこれに関する地域住民活動を支援							
事業費の決定方法等	過去実績	関係団体等の要望に基づき、事業費を決定 H25：7,211千円、H26：9,456千円、H27：10,963千円						
	将来見込み	事業実施計画に基づき、H27事業費より増額して支出予定						
類似事業の状況	事業名	—						
	役割分担	—						
基金の運用形態	(1) <input type="checkbox"/> 取り崩し型 (2) <input checked="" type="checkbox"/> 果実運用型 (3) <input type="checkbox"/> その他							
基金造成の経緯	造成年度	当初・補正	原資となった事業の名称	金額(千円)	国費 一般財源等の別			
	平成5年度	補正	中山間ふるさと水土保全対策事業	240,000	国費：1/3 道費：2/3			
	平成6年度	当初	中山間ふるさと水土保全対策事業	135,000	国費：1/3 道費：2/3			
	平成7年度	当初・補正	中山間ふるさと水土保全対策事業	454,680	国費：1/3 道費：2/3			
	平成8年度	当初・補正	中山間ふるさと水土保全対策事業	454,680	国費：1/3 道費：2/3			
	平成9年度	当初・補正	中山間ふるさと水土保全対策事業	454,680	国費：1/3 道費：2/3			
	平成10年度	補正	中山間ふるさと水土保全対策事業	100,000	国費：1/3 道費：2/3			
基金規模の根拠(考え方)	国との協議に基づき、約18億円を原資に事業を実施							
基金創設時の運用収入規定	29,200千円(7億8千円×約3.75%)							
過去に実施した見直しの概要	条例に繰替運用等の条文を追加し、平成14年度から、一般会計に繰り入れて運用している。							
収入・支出等(百万円)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度見込み	備考(原資等)	
	前年度末基金残高(a)	1,849	1,854	1,856	1,856	1,854		
	収入	積立金	2	0	0			前年度事業執行残
		運用収入	9	9	9	9	9	財産運用収入(繰入運用)
		その他						
	計(b)	11	9	9	9	9		
	支出	事業費	6	7	9	11	14	基金繰入金
その他								
計(c)	6	7	9	11	14			
当年度末基金残高(a+b-c)	1,854	1,856	1,856	1,854	1,849			

運用の状況 (27年度)	形態		運用額(千円)	期 間	金 利	運用益	備 考
	債券運用	国債			月 日～月 日		
道債				月 日～月 日			
その他				月 日～月 日			
預託	合同		55,602	3月31日～3月31日	0.1700～ 0.3410%	141	
			599	9月30日～3月31日	0.2250～ 0.2300%	1	
	個別		599	5月29日～9月30日	0.0250%	0	
	その他		1,800,000	4月 1日～3月31日	0.5%	9,000	一般会計繰入運用
	計		1,856,800			9,142	
	管理体制	人 工		3.6人工			
		フルコスト		43,682千円			
基金方式の 必要性	基金事業の種類		(1) <input type="checkbox"/> 法律に根拠があるもの (2) <input type="checkbox"/> 不確実な事故等の発生に応じて資金を交付するもの (3) <input type="checkbox"/> 事業の進捗が他の事業の進捗に依存するもの (4) <input checked="" type="checkbox"/> その他				
	基金方式によらざる を採ない理由		国の要綱の規定による				
	基金を廃止した 場合の影響等		・国の要綱により、事業は基金の運用益により実施するものと規定されていることから、事業の実施にあたって別途財源措置が必要。 ・基金の国費相当分の返還が必要になるものと想定される。				

2 過年度における政策評価意見

平成 年度 二次政策評価意見	特になし
これまでの対応状況	特になし

3 評価結果

項目	方向性	評価	評価意見及び附帯意見等
一次政策評価(案)	基金継続	現状維持	<p>平成6年度から平成27年度までに、農業・農村の有する多面的機能の良好な発揮と活性化を目的として、本基金の運用益を財源とする「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」を実施し、自然景観の保全・再生や都市との交流の促進、地域農産物の付加価値化などの活動を支援し、中山間地域の活性化を図ってきている。</p> <p>今後も、人口減少・高齢化の進行による地域コミュニティ機能の低下が、農業生産や定住条件に悪影響を及ぼすことが懸念されることから、中山間地域の活性化を図ることを目的とする本事業の継続的な実施が必要である。</p> <p>本基金は、中山間地域の住民活動が、地域の状況に応じて多様な形態で実施されることを踏まえ、年度毎の予算措置ではなく、弾力的な支援措置が可能となるよう造成したものであり、今後も、中山間地域における自主的な地域住民活動の定着と、地域活性化への取り組みを持続的に支援するため、本基金事業を継続する。</p>
基本評価等専門委員会意見	見直し検討		<p>基金設置時に想定していた運用益が得られておらず、事業内容が限定されている状況を踏まえ、毎年度の必要な事業量の確保、事業の客観性・透明性を確保する観点から、基金方式から毎年度の予算措置方式に変更するなどの見直しとあわせて、設置時の財源にも配慮しつつ、基金の廃止についても検討すること。</p>
一次政策評価	基金継続	取り崩し型へ変更	<p>平成6年度から平成27年度までに、農業・農村の有する多面的機能の良好な発揮と活性化を目的として、本基金の運用益を財源とする「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」を実施し、自然景観の保全・再生や都市との交流の促進、地域農産物の付加価値化などの活動を支援し、中山間地域の活性化を図ってきている。</p> <p>今後も、人口減少・高齢化の進行による地域コミュニティ機能の低下が、農業生産や定住条件に悪影響を及ぼすことが懸念されることから、中山間地域の活性化を図ることを目的とする本事業の継続的な実施が必要である。</p> <p>本基金は、中山間地域の住民活動が、地域の状況に応じて多様な形態で実施されることを踏まえ、年度毎の予算措置ではなく、弾力的な支援措置が可能となるよう造成したものであり、今後も、中山間地域における自主的な地域住民活動の定着と、地域活性化への取り組みを持続的に支援するため、本基金事業を継続する。</p> <p>今後の事業実施に当たっては、運用益の不足により事業内容が限定されることのないよう、国の実施要領に基づき、基金の取崩し型への移行を検討する。</p>
二次政策評価	見直し検討		<p>低金利の状況のもと、基金設置時に想定していた運用益が得られておらず、事業内容が限定されている状況を踏まえ、条例制定時の経緯や基金のあり方見直しによる具体的な影響などを見極めた上で、金利情勢に左右されない、長期・安定的な事業実施について検討すること。</p>